

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4078700210		
法人名	社会福祉法人 朋寿園		
事業所名	グループホーム 夢想園		
所在地	福岡県みやま市瀬高町松田481 (電話) 0944-63-2242		
自己評価作成日	平成 25 年 8 月 3 日	評価結果確定日	平成 25 年 11 月 8 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

のどかな田園地帯にあり特別養護老人ホームの敷地内に併設しており、デイサービスに行ったりホームの慰問や行事参加したり、近隣の方よりお花をいただいたり、近くの道の駅までショッピングに行ったりして、地域と密着した運営を目指している。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL <http://www.kaigokensaku.jp/>

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成 25 年 9 月 10 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は田園風景が広がる広い敷地の一角にあり、法人の関連福祉施設に隣接している。明るく清潔で細やかな心遣いが随所に行き届き、玄関周りは可愛い草花が植えられている。ゆったりとした時間の流れの中、明るく元気な職員と穏やかな表情の利用者が家庭的な雰囲気の中なかで暮らしており、恒例の柳川駅のイルミネーションの見学と一緒に出かけ、利用者と職員が感動の瞬間を共感するなど信頼関係づくりに努めている。また、近頃新しく迎えた利用者やご家族の思いを受け止め、事業所の理念である“利用者の尊厳を支え優しい介護”に取り組んでおり、今後も、その理念の実現に向けた事業所の取り組みに期待したい。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	高齢者の自立と尊厳を支え福祉を通じて地域社会に貢献する。地域社会の一員として優しい介護を提供し生活の質の向上に貢献する。	事業所理念に「地域社会に貢献する」「地域社会の一員として」を掲げ、ロビーに掲示している。職員は朝礼で理念を唱和し意識づけ、職員間で共有している。日々のケアの中で理念の実践に向けて取り組んでいる。また、関わりのなかでの気づきなどは、管理者や職員同士で注意し合っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	田園地帯で近所があまりないがお花を持って来たり、散歩の時に声かけをしていただいている。	地域の方との付き合いを大切にしており、近所の方から四季折々の花をいただいたり、毎週土曜日は隣接事業所で地域の方や幼稚園児とはば広く交流している。法人と合同の恒例の夏祭りには、地域の方も参加し共に楽しむ関係ができています。また、中学生の職場体験やボランティアの実習を受け入れるなど、地域との関係づくりに努めている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会やデイサービスとの交流で理解や支援をしてもらうよう努めている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入所者の近況報告・行事計画・報告・質疑応答など園だよりなど配布している。	運営推進会議を2ヶ月毎に開催し、事業所の活動報告・行事予定などを報告している。会議への参加者が低迷していたが、6月は委員全員参加のもと開催し、活発な意見の聴取ができた。意見は、運営や介護サービスの質の向上に活かすように取り組んでいる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要時に相談助言指導を受けている。運営推進会議にも参加されコミュニケーションをとっている。	更新申請書類の提出や介護保険改正時などに、担当の職員との話し合いや相談を行っている。また、相談事例（利用者の生活の緊迫や車椅子の利用）など、その都度相談をして対応してもらい、共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会をしたり玄関にチャイムをつけ鍵の施錠はしていない。	日中は事業所の施錠はしていない。身体拘束に関する勉強会を開催し、徹底理解を図っている。外出傾向がある利用者への対応については、職員がチームで取り組んでおり、また、敷地内の法人の隣接事業所との協力関係により連絡が貰える仕組みなどがあり、利用者の自由な暮らしの支援に努めている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を開催し理解に努め注意を払い、防止に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在活用している方はいないが、窓口パンフレットを置いて必要な方にはいつでも支援できるよう勉強会を行っている	権利擁護に関する制度について、職員は勉強会に参加し理解している。利用者・家族への制度に関しての説明は、契約時など状況に応じてその都度説明・相談に応じている。また、利用者が必要と考えられる状態になった場合は、パンフレットを利用し対応する体制はできている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い、いつでも相談を受け納得していただけるよう心がけている		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置したり面会時にコミュニケーションを多くとり、運営に反映するよう努めている。	管理者や職員は、利用者との日々の関わりの中で本人の思いや意見を聴き、伺うようにしている。家族は運営推進会議に参加し意見を述べる機会がある。また、職員は家族の訪問時に声をかけをし、意見などを伺うように努めている。いただいた意見などは関係者で話し合い、運営に反映するように取り組んでいる。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝ミーティングや月1回の職員会議で意見交換を行い改善に努めている。	管理者は、日頃から職員が気軽に話せる雰囲気づくりや現場の意見が出しやすい職場環境づくりに努めている。職員の異動などについては利用者・家族との馴染みの関係が継続できるように取り組み、引き継ぎの期間を十分に取っている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各個人の役割を分担し向上心を持って働けるよう努めている。 年2回目標シート作成し給与や賞与に反映している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している</p>	<p>年齢や性別等は問われない。 運営母体が採用を決めている。 外部内部での勉強会を促している。</p>	<p>法人代表者及び採用担当者は、公正な選考を行いグループホームに適した資質の職員の採用を行っている。事業所は職員の勉強会への参加や資格取得に向けた支援を行い、習得後はその能力が十分に発揮できる適材適所の中で勤務できるように配慮している。職員が向上心を持って安心して働けるように職場環境・条件の整備に努めている。</p>	
14	10	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>法人の新人研修や職員会議で勉強を行い、人権教育に努めている。</p>	<p>利用者に対する基本的人権を尊重する環境は構築されている。職員に対する人権教育・啓発活動に関する研修等の取り組みについては、法人による新人職員研修以降行われていない。</p>	<p>職員に対する人権教育・啓発活動については定期的に取り組んで欲しい。利用者の権利守り支える共通意識を職員間で持ち、取り組まれることが望まれる。</p>
15	—	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内部での研修や勉強会に参加できるように勤めている。</p>		
16	—	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同業者との交流やネットワークづくりの勉強会に取り組んでいる。</p>		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>個人の部屋で話を聞き安心していただける環境を提供できるように努めている。</p>		
18	—	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族とのコミュニケーションを図り面会時や連絡などで話を聞いている。</p>		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が今必要としている事を聞き、対応している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な生活とその人の生活リズムを把握し、今の状況に合った過ごし方を見い出している。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	2ヶ月に1回定期通信を発行し、定期的に通院が必要な場合は同行して頂く。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	デイサービスや特養での行事や法話などに参加して馴染みの方とのふれあいや交流を図っている。	職員は利用者の馴染みの人や場を把握している。2ヶ月毎に“夢想園”を発行している。担当職員が手紙などで利用者の暮らしぶりなどを伝えて、これまでの関係が途切れないように支援している。また、法人の隣接事業所へ定期的に地域の方に会いに出かけ、法話を傾聴したり馴染みの方との談笑を楽しんでいる。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションやドライブなどを通して楽しく過ごせる関係に努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された場合は定期的に家族に連絡をとり相談や支援に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者のご家族に聞き一人一人の思いや希望意向などを把握するよう努めている。	職員はお風呂や歓談時にゆっくり利用者に関わり、本人の思いを伺い把握に努めている。意思疎通が困難になられても、寄り添い声かけをし、目の動き・目線・表情・しぐさなどから本人の思いを汲み取るように努めている。また、関係者で話し合い、本人の思いを大切に支援している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントや本人とのコミュニケーション等から経験や主要となる出来事を知る事でその方の生活文化や個人を把握しようと努力している。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体的心理的行動を観察することからその日の状況や状態に合わせた統一したケアに努めている。介護日誌や申し送りなどで伝達している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	精神的身体的に現状維持が出来るよう意見やアイデアを出し合い怪我や事故のないような介護計画を作成している。	利用者毎に介護計画担当スタッフを決めている。利用開始時に本人・家族の意向を確認し、初回は3ヶ月、定期は6ヶ月毎、状態変化時はその都度見直しを行っている。月1回全職員でモニタリング及び意見交換を行い、利用者の現状に即した介護計画を作成している。家族の面会時には説明行い、同意を得ている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状況を記録し気付いた変化や改善の意向など職員の意見や工夫を取り入れ実践し介護計画の見直しに努めている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人のデイサービスにおいて交流を目的として参加したり特養での年中行事に参加している。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	特養での慰問参加やデイサービスとの交流で楽しんでいる。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者全員主治医を持ち定期的に往診又は主治医とコンタクトを取り異常の早期発見に努めている。 心身の異常時は速やかに主治医に連絡し往診依頼又は受診がスタッフ・家族によりできるようにしている。	利用開始時に本人・家族へかかりつけ医の確認を行い決めている。距離が遠く待ち時間が長い医療機関については家族が介助を行い、都合がつかない時は職員が支援することもある。通院が困難な時は訪問診療に来てもらうこともあり、診察の結果はその都度家族へ報告している。利用者・家族の状況に応じて必要な医療を受けられる体制がある。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の観察や健康状態の変化など気付いた事を介護、看護職情報交換し早期発見に努めている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時はなるべく早く職員が面会し精神的苦痛の緩和に努め、状態を把握し医療機関をと情報交換を行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や週末期については入居契約時に家族と話し合っている。 家族や本人の希望に叶うようなケアを主治医と相談しながら行っている。	看取り介護についての同意書があり、契約時に事業所が対応しうる最大の支援方法を説明している。主治医が看取りを判断した時には再度説明し、意向の再確認を行う。現在まで事業所で看取った方はいないが、方針を共有しチームで支援できる体制を整えている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し活用している。 職員研修や会議等で対応について学んでいる。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	救急法や消火訓練など特養と行っている。 地域の消防団に協力もしてもらっている。	マニュアルが整備されており、年1回、隣接施設と協働し夜間を想定した避難誘導訓練を実施している。その際は町内の消防団に協力を依頼している。非常用食品・飲料水等は、隣接施設に保管している。	避難訓練は、最低年2回義務付けられているので、年間計画をたてて消防署に協力を仰ぎながら実施して頂きたい。また、非常用備品等は事業所内に準備して頂きたい。
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人材を尊重しプライバシーを損ねない様配慮し対応している。	排泄の介助では、他の利用者に気付かれないような言葉かけやさりげない声かけで利用者を傷つけないように行っている。1日3回の申し送りにて利用者の情報を共有し、他の来訪者に話さないよう意識付けしている。年1回、利用者のプライバシーに関する内部研修を行い、職員の意識向上を図っている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や家族と相談をして行っている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望に沿って支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月一回理容院が来園されている。 又、家族が連れて行かれている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の体調や好みに合わせ食事形態を変更している。	調理は事業所で行い、職員と利用者で片付けを行っている。利用者の嗜好によりパン食・米飯を選ぶことができる。中庭で食事をしたり、おやつにぼた餅やたこ焼き、誕生ケーキを利用者と一緒に作り、食が楽しみとなるよう支援している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特養施設の管理栄養士が献立を作成し摂取量、水分量を記録している。 個々の利用者に合わせてお粥、ミキサー食、トロミのついたお茶を摂取している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後利用者のレベルに合わせて口腔ケアを行っている。 うがいが必要な利用者に対してはガーゼにて口腔内を洗浄している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	立ち上がりや不安定な利用者には介助を行い見守り、付き添いなど行っている。 できる限りトイレでの排泄の自立へ向けた支援を行っている。	利用者の動作を観察し、排泄の兆候を把握している。失敗による不快を防ぐとともに、トイレでの排泄が続けられるよう支援している。利用者毎に排泄記録表を作成しており、尿量に応じておむつの種類、パットを選定し、利用者の排泄パターンに応じた支援がされている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日軽体操を行い、水分、食事、排便、排便のチェックを行い記録している。 利用者に応じて腹部マッサージを行ったり主治医へ報告し緩下剤を処方してもらい排便コントロールを行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	一日おき週3回の入浴だが利用者に合わせて、その日の状況、状態にて無理なく楽しめるように個々に沿った支援を行っている。	週3回の入浴を行っているが、利用者が毎日でも入れる体制を整えている。「洋服を洗濯しましょうか」との声かけにより、自宅でお風呂に入らなかった利用者が入浴するようになるなど、個々に応じた入浴支援が行われている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別的休息される方は居室にて休んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の指示により服薬の支援をしている。 服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。服薬の目的、副作用、用法、用量は明記いつでも閲覧できるようにしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	おしぼり巻き等を手伝っていただいている。 併設する施設との交流散歩ビデオ鑑賞で気分転換等の支援をおこなっている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じ花見見学、道の駅への買い物、施設周辺での散歩など道行く人とのコミュニケーションをとる事も行っている。	利用者の意向を確認し、毎週土曜日に隣接の通所介護事業所へ出かけている。また、家族の協力を得て行きつけの美容室へ外出したり、一人ひとりの習慣に合わせた外出支援が行われている。昨年は柳川駅のイルミネーションの見学に出かけている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談し職員が管理しているが、ショッピングなどを企画し希望に応じて買物をされる様支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望時はすぐに対応している。 手紙、はがき、送付時は代筆し共に喜び合っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ロビー、玄関、洗面所などに季節の花を飾り、季節感を演出している。 外庭、中庭にも利用者とともに季節の花を植えて育てている。	食堂兼リビングにはソファが置かれ、一人で過ごしたり、仲の良い利用者同士でくつろげるよう配置を工夫している。 廊下は回廊式で、中庭に面した窓も大きく、いつでも中庭に出ることができ、開放感がある。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファ、長椅子があり中庭にもテーブルがあり入所者が好きな場所で過ごしていただけるよう工夫している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅にて需要されておられた家具や人形を持参して頂き居心地の良い工夫をしている。	全居室、屋外に面した窓は掃出し窓で開放感があり風通しが良い。火気器機以外は持ち込みの制限はなく、仏壇を持ち込まれたり、家族の写真が飾られ、利用者が落ち着いて過ごせるよう工夫がなされている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレには手すりを玄関、中庭にはスロープを設置している。全室バリアフリーになっている。入口にはマスコットなどつけている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2/3くらいと
				③ 家族の1/3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
			○	③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2/3くらいが
				③ 職員の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2/3くらいが
				③ 利用者の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2/3くらいが
				③ 家族等の1/3くらいが
				④ ほとんどいない